

靖國神社と聖戦史観—A級戦犯こそ靖國にふさわしい 吉田裕介 著

内田雅敏=著

72頁増頁の追録三刷版 !!

**靖國神社問題の核心は政教分離より歴史認識と戦死者の「魂独占」の虚構である!
死者の魂鎮めを一宗教法人に委ねていていいのか!
全ての戦没者の為に無宗教の国立追悼施設を!**



巷間、靖國神社にA級戦犯を合祀したから中国、韓国らから批判される、この際、A級戦犯の方々に余所に移つてもらおうという、いわゆるA級戦犯分祀論も唱えられます。A級戦犯を分祀すれば問題の解決となるのでしょうか。否です。解決とはなりません。それは、靖國神社がA級戦犯を合祀していることが問題なのではなく、靖國神社がA級戦犯合祀に象徴される「聖戦史観」に依つて立つ戦争神社であるからです。

（本文より）
巷間、中国、韓国らからの靖國神社参拝批判に対し、戦没者に対する追悼はどここの国でもやっている、何故それが批判されるのか、と反論がなされることがあります。毎年8月15日、武道館で政府主催による戦没者追悼式が行われていますが、この追悼式を中国、韓国らが批判することはありません。それはどここの国でも行つてはいるからです。靖國神社参拝批判は、戦没者に対する追悼批判ではなく、靖國神社といふ場でそれが行われることへの批判なのです。

この本は戦後の平和護憲運動の欠落を埋める紙碑である！

著者略歴 内田雅敏(うちだ・まさとし)

1945年愛知県生まれ。75年東京弁護士会登録

日弁連人権委員、同接見交通権確立実行委員会委員長、関東弁護士会連合会憲法問題協議会委員長を経て、現在日弁連憲法委員会幹事。

弁護士として通常業務のほかに強制連行・強制労働・靖國等の歴史問題を取り組む。

中国人強制労働花岡事件(鹿島建設)、同西松建設事件、同三菱マテリアル事件等の和解に尽力した。

著書に『元徴用工和解への道』(ちくま新書)、『和解は可能か』(岩波ブックレット)、『靖国参拝の何が問題か』(平凡社新書)、『戦後補償を考える』(講談社現代新書)、『平和資源としての中共同声明』(スペース伽耶)、『戦後が若かった頃に思いを馳せよう』(三一書房)、『想像力と複眼的思考』(スペース伽耶)、『乗っ取り弁護士』(ちくま文庫)等。

共著に『在日からの手紙』姜尚中共著(太田出版)、『憲法9条と専守防衛』箕輪登共著(梨の木舎)他。

（一〇二）一七年七月、本書の増補版（刷版）に出した時、靖國問題の「全て」を書きさうとしたが、いつになつてました。ところが二月、四年一月、幹部自衛官らの靖國神社参拝が報じられ幹部自衛官らの靖國神社への「距離感」の欠如を驚かされました。その後も、一部幹部自衛官が靖國神社の宮司就任もあるいは靖國神社合祀案などに驚いています。靖國神社合祀案は、元幹部自衛官「台湾有事の暗伝と自衛隊員の死殲者、物語が不可欠なのです。本『制式版』で、全部をなくしてする軍隊には靖國といく、物語が不可欠なのです。」とあります。内田雅敏

2025年12月14日、小雨が降る中、制服姿の防衛官、大佐集団で靖國神社を参拝した。横顔賀から夜を徹して、九段の靖國神社まで徒歩で向かい、参拝後は、各自が持つバースの間に制服に着替え、集団参拝を終し、帰りはバスでの眠りながら帰校する長年続く恒例行事だ。当局は、防衛大生たちの自発的な活動であって強制ではないと言ふが、実態は強制ではない。か。宮司に元自衛隊海将、崇敬者総代に元自衛隊陸長が就任している靖國神社に防衛大生の頃からの集団参拝。自衛隊と靖國神社との関係は想像以上に深い。

防衛大生靖國神社に集団参拝

貴店番線	発行:藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165	
	月 日	靖國神社と聖戦史觀 —A級戦犯こそ靖國にふさわしい 〈追録三刷版〉
	冊	定価1980円(税込) ISBN 978-4-86538-181-8 C0295 ¥1800E

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで